

教育講演会 子供は地域社会の宝、国の宝

講師：小児科医・医学博士 田下 昌明 先生

未来を担う子供達の健全な成長を、今、阻害しているものは何でしょうか。そして、それをどう克服したらよいのでしょうか。父・母等、保護者はもちろん、街のおじさん・おばさんにも、おじいさん・おばあさんにも、子供達のために、何かできることがあるのでは、……？
長年、子供達や子育ての現場を見てこられ、「お母さんありがとう運動」を提唱しておられる小児科医田下昌明医博の、含蓄ある貴重なお話に耳を傾けてみませんか。

田下昌明先生プロフィール 1937年北海道旭川市生まれ。



北海道大学医学部卒。医学博士。

医療法人歙生会豊岡中央病院会長。

日本小児科学会認定小児科専門医、日本小児科医会「子どもの心相談医」、日本児童青年精神医学会会員、日本家庭教育学会理事、北海道小児科医会理事

主な著書『真っ当な日本人の育て方』『一に抱っこ二に抱っこ三、四がなくて五に笑顔』、その他多数

日時：平成28年10月30日（日）13:30～15:30（13時開場）

会場：北農健保会館・会議室「エルム」 札幌市北4条西7丁目

（京王プラザホテルの北5条通りを隔てた南側です）

会費：予約券1,000円（当日受付1,200円）

主催：公益財団法人新教育者連盟札幌支部

後援：日本会議北海道本部

予約券の必要数等をFAXにてご連絡下さい。

予約券ご希望枚数と送金方法のお知らせをお送りさせていただきます。

----- FAX送信文 -----

教育講演会（10月30日）の受講を希望します。希望枚数（_____人分）

お名前		(TEL/FAX)
予約券送り先	(〒 _____)	

FAX宛先 011-667-6594（狩野）又は 011-373-4622（伊藤）

田下昌明著『真っ当な日本人の育て方（新潮選書）』の「まえがき」より

今、子育ては大変です。本気でかかわって助言、指導してくれる人がとても少なくなりましたからです。

初めての育児は練習なしで、いきなり本番がやってくるので、育児のすべてを最初から自信を持ってできる親はいません。だから世界の多くの地域では、育児は家族や近所の人など力を合わせて行っているし、また本来そうすべきものなのです。

今の日本ではどうでしょうか。地域のあり方、核家族化の影響もあるのですが、おじいちゃんも、おばあちゃんも、近所の人もいつの間にか周りからいなくなり、気がついてみると若い母親一人だけがとり残されて、孤立無援になっている状況です。また最近では「産みたいけど産めない」という人ばかりではなく、「産めるけど産みたくない」という人も多くなっています。このような状況下で少子化がどんどん進み、さらには、どう育児をすればいいのかわからない親も増えてきました。

一方、小学生同士の殺し合い、中学生の親殺し、ホームレスへの暴行殺人など、最近の新聞やテレビのニュースには少年犯罪事件が報道されない日はほとんどありません。2005年9月の文部科学省の公表によると、過去二年間の公立小学校での校内暴力事件は連続して増加しており、その内訳は教師へ向かう暴力行為が急増しているということです。また、弱者である幼児や小学生を襲う大人、さらにはわが子を殺す親など、ひと昔前なら想像もつかない事件が当たり前のように起こるようになってきました。

私は旭川市に住む、小児科医です。医師になってから2006年で40年になりますが、これまで、延べでおおよそ50万人の子供たちと接してきました。そしてこの間、私は母子の関係が希薄になってきたこと、いびつな心の青少年が多くなってきたこと、ニートと言われる無気力な青年が発生してきたことなどを、診察室の中で実感してきました。

青少年のこのような問題は、戦後の育児の仕方があやふやになって、それまでの日本の育児方法のいいところが消えてしまったせいだと私は思っています。そういう育て方をすれば、現在のような結果になるのは当然であることが本書をお読みになればご理解いただけるでしょう。

育児は「わが子を育て上げれば、それでおしまい」というものではありません。

育児は「孫まで」だと私は思います。自分が子に教えたことが、ちゃんと孫に伝えられているかを確認するところまでが、おじいちゃん、おばあちゃんの責任範囲なのです。住んでいる地域にもよるでしょうが、現代では三世代が同居しているケースはそう多くないでしょう。しかし一方で、スーブの冷めない距離に住んだり、少子化や共稼ぎのせいで、何かと孫に接する機会の多い祖父母も少なからずいることは確かです。だから、そうしたおじいちゃん、おばあちゃんには、もう一度育児の場に戻って来てもらわなくてはなりません。

つい半世紀前までは残っていた日本型育児方法、たとえば夫婦仲良く、抱き癖をつける、添い寝をする……など、どれも当り前のことなのですが、それが自信を持ってなされていない現状から、日本人は早く抜け出すべきです。

本書は、これからお母さんになる人を念頭において、「胎児期、出生時、新生児期から幼児期への連続性」を基調にして、子供の心の発育過程を中心に書かれています。しかしくり返しますが、育児は現実に子供を持っている人たちだけが行う仕事ではありません。おじいちゃん、おばあちゃんになる人はもちろん、妊娠出産の予定のない人にも読んでいただきたいと念願しております。

妊娠・出産・育児という一連の仕事は、その国（民族）の将来の根幹を育成することです。ですから、本来ならばそれを実践している女性は社会から称賛され、感謝と尊敬の念で見守られなければなりません。

私たちにとってかけがえのない大切な日本の将来を担ってもらう子供たちを、自信と誇りをもって育てていきたいものです。